

丹波布展 ~ 自然盈満

しぜんえいまん



綿を手で紡ぎ、身近な草木で糸を染め、緯(よこ)糸に一部絹糸を使いながら織りあげる丹波布。素材から染料、道具まですべて自然からいただいたもので出来上がっています。そんな自然に満ち溢れた(自然盈満)布は、ふっくらと暖かみを感じさせてくれます。今回、丹波布技術保存会員による、反物を展示致します。是非、ご高覧ください。

展示期間 : 2020年12月4日(金)~21日(月) ※火曜休館

場所 : 丹波布伝承館内(丹波市青垣町西芦田541-1 道の駅あおがき内)

※開館時間 午前10時~午後5時

主催 丹波布技術保存会

お問合せ 090-6435-9625(展示会担当)

丹波布ができるまで

素材

丹波布の主な素材は綿です



染める

紡いだ糸が溜まると
栗の皮やこぶな草等
身近な草木を使って染めます



栗は茶色、こぶな草は黄色
の染料として使われますが、
媒染によって色が変化します

紡ぐ

綿打ちされた綿を
“じんき”にして



紡ぎます



織る

整経やちきり巻きといった
様々な工程を経て、糸を機
にかけ、織ります



丹波布は緯(よこ)糸に一部
“つまみ糸”と呼ばれる絹糸を
使うことが特徴です

国指定の無形文化財に指定された丹波布は、
手で糸を紡ぐ、草木で染める、手織りする、
つまみ糸を使うといった四つの約束(四原則)
を守って丹波布は出来上がります。

完成までに半年を要することもあります。



できあがり!